

学校図書館報

赤 土

第56号

編集・発行  
群馬県立館林高等学校  
学校図書館・図書委員会  
印刷／東京広告株式会社



読書の楽しみ、  
読書の効果  
校長 高張 浩一

令和元年度学校図書館報「赤土」の発行に当たり、原稿執筆など御協力くださいました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

な割合も高く時間があれば読書をするようになると考察されています。

子供たちの読書に関して文部科学省が委託調査を実施しています。少し前になりますが、平成27年3月に報告された「高校生の読書に関する意識等調査」では4000名以上の高校生と保護者、学校からの回答がされており、1か月間に1冊も本を読まない人の割合を「不読率」というので、高校生の不読率は5割強とあり、平成30年度に実施された「子供の読書活動推進計画に関する調査研究」でも高校生の不読率は5割強とあるとの、高校生の実態を表していると思えます。一方で、約6割の生徒が読書は好きだと回答しており、読書は好きだが普段は本を読まない生徒が一定程度いるのではな

いかと分析しております。本を読まない理由として、1か月間に1冊も本を読まない生徒の7割が「本を読む習慣や興味関心がない、必要性を感じない」と回答しています。その他の3割は「時間が無い等の理由で読めない」と回答しており、これらの生徒は読書が好き

家庭環境との関係では、保護者の読書量や家庭の蔵書量と生徒の読書量との関係性が見られるようです。また、大学への進学希望者のほうが本を読む習慣が身に付いている生徒が多く、本を読むことと学習習慣の関連性を指摘しています。

本校の生徒のほとんどが大学進学を考えているので、この調査結果からすると本を読む習慣が身に付いている生徒が多いということになります。実際に運動部で熱心に活動している読書の時間確保が難しいような生徒も、図書館で本を借りて上手に時間を生み出して読書をしていると本校の司書から聞いています。

本校の2学期充実度アンケート調査によると、2学期中に2冊以上の本を読んだ生徒の割合は36.4%、全く読んでいないのは26.7%でした。2学期中には、新書読破月間もあったので、そのときに本を読んだという生徒も含まれているかと思いますが、多くの生徒が本を読んでいることが分かります。

高校生の読書に関する意識調査では、保護者や教員は高校生の読書について、視野を広げるといった効果を期待している人の割合が高く、生徒は楽しむことや気分転換を読書の効果として認識している人の割合が高く、認識に差があることを調査結果は示しています。

今年度の全国高等学校PTA連合会京都大会での講師であった永田和宏氏の著書「知の体力」に読書の必要性として、「読書や学問をすることの意味は、自分がそれまで何も知らない存在であったことを初めて知る、そこに意味がある。」「自分を客観的に眺めること、すなわち自己の相対化である。」と記されています。少し難しい考えかもしれませんが、読書を通して自分と本の内容から学ぶだけでなく、読書を通して自分を再認識するという効果があり、そこが重要だと永田氏は言っているのだと思えます。

伊藤忠商事の元会長で読書家として知られている丹羽宇一郎氏の著書「人は仕事で磨かれる」には、読書でしか得られないものは論理的な思考や想像力であると記されています。また、娯楽の読書は雑草を育てるようなもので、いくら育ててもしようがなく、太い幹を育てるなら常に考えながら読書をする必要があると言っています。

読書が何より好きな人からの視点も大切だと思います。しかし、読書が好きでない人にとって、本の読み方や読書の効果を説明してもハードルが高いのではな

いかと思えます。そういう人には、まずは楽しむ読書を、そして既に読書が習慣になっている人には楽しむだけの読書だけではなく、何かを身に付けるための本の読み方も試してみようというように、各自の状況に応じた読書をすればよいのではないのでしょうか。

私自身を振り返ってみても、今でこそ本の内容を深く知り、知識や考えを深めたいと思つて本を選び、本を読むことも多くなりましたが、中学生や高校生のときは単純にその本を読んで楽しいからという理由で読書をしていました。もちろん今でも、楽しむために読書をすることもあり、読書に何かしらの効果を求めて読む本と楽しむために

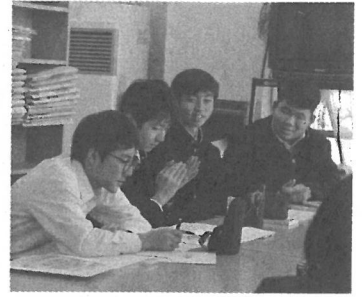
読む本のジャンルは多少異なっていると感じています。高校生の頃は、小説、推理小説、SF小説などを好んで読んでいました。推理小説ではアガサ・クリステイ、SFでは星新一などが多かったと記憶しています。

高校生のときは、読書の効果などを考えずに楽しむことが大切なようにも感じました。前述したように、読書の習慣や興味関心がない生徒は全く本を読まない状況ですから、まずは楽しむことで興味関心をもつことが読書の入り口になるのではないのでしょうか。



第39回七校合同読書会  
☆テキスト  
『君は月夜に光り輝く』 佐野徹夜著  
☆メインテーマ  
『もしも大事な人や愛する人が、余命幾許もないと宣告されたらどうするか』

館林高校独自のテーマとして、「死ぬこと、生きること、どちらが恐ろしいか。」について、死ぬことが恐ろしいという意見が多く、また「死んでしまつたら大切な人との思い出がなくなつてしまつて、生きていければ死んでしまつてよかった。」と意見が分かれた。



館林高校参加者感想

◆館林高校班/司会

2年 大石 陸

今回、邑楽・館林地区七校合同読書会に参加し、司会という重要な役割をやらせてもらいました。正直、司会という立場であり、尚且つ「読書会」という厳かな響きの行事でしたので、最初はすごく緊張していませんでした。そもそも、慣れ親しんでない人と盛り上がりつつ話をすると、ということ自体が苦手なので、そういった不安もありました。しかし、いざ始まると、どの高校の人も独特でユーモア溢れる意見を出してくれました。また、僕ら館林高校班の独自テーマとして「生きるのと死ぬのとどちらが怖い」という、メインテーマ「もしも大事な人や愛する人が、余命幾許もないと宣告されたらどうするか」とはかけ離れた話題に対して、考える時間があまり無かったのにも関わらず、多くの意見を寄せてもらいました。おかげで、会を非常に円滑に進め、有意義な時

間をすることができました。最後に、読書会を盛り上げるために協力してくださった館高班の皆さん、読書会の運営に携わってくださった諸先生方と大泉高校の皆さん、ありがとうございました。楽しかったです！

◆館林高校班/書記

2年 小林 勇翔

私は今回七校合同読書会に初めて参加し、書記の係をしました。館林高校では、当日の発表よりも前に2回ほど練習して当日に備えました。しかし、本番では緊張や戸惑いもあり、最初はスムーズに討議を進めることができませんでした。しかし、他校の人たちが雑談をまじえながら、緊張を緩和させてくれ、その後は楽しみながメインテーマや本の感想などの意見交換ができました。私たちの班では時間が余っていたので、館林高校独自のテーマをみんなで話し合う時間もとることができました。休憩の時間にも、班のみんなの好きな本やアニメなどで話が盛り上がり、とても有意義に討議することができました。私は、書記兼全体での発表する係でもあったため、班の意見をまとめることは大変でしたが、司会との協力もあり無事発表を成功させることができました。今回私は書記という仕事でも楽しく話し合いに参加でき、とても良い経験と思いい出をつくることができました。

◆館林女子高校班

2年 齋藤 秀真

私は、今回の七校合同読書会に初めて先生に情報をもりました。その中の情報で「女子の方が多くなる班もある」という情報を聞いたとき、私は一言しか書いていなかった。「質問攻めにされるのではないかな」と「班の人と仲良くできるか」といった不安に襲われました。しかし、行ってみると男女の比は半分とあったところで、意見を言う時も周りの人は長々と語って、自分は端的に済ませてしまっても意見を受け入れてくれたので安心しました。

班の人は学年も高校も違い、最初は静寂が包みましたが自己紹介の後のレクリエーションで僕たちの班では「クレヨンしんちゃん」の絵を描くことになり、描いて見せ合うとそれぞれ個性があり、面白かったです。メインテーマの議論が終わると趣味や好きな芸能人などの雑談になり、最後には男女や他校の隔たりはなくなっていました。同じ本を読み、同じテーマについて考えても、考えることは皆面白いかったです。

◆館林女子高校班

2年 本間 健心

今回、初めて七校合同読書会に参加してみましたが、他の学校の生徒たちと一緒に楽しく意見を交換したり、ちよっとした雑談をしたりすることができたので、とっ

ても有意義な時間を過ごすことができてよかったです。正直に言うと、最初はとても緊張しました。なぜなら、女子生徒が多かったからです。グループで話し合うときの男女の数は半々でしたが、それでもあまり口を動かすことができないのではないかと、不安になりました。自己紹介でも、「あまり上手く説明できないかもしれませんが……」と紹介したほどです。

しかし、レクリエーションや雑談を通して、他校の生徒と楽しく意見交換をすることができたと思います。もちろん、完璧に自分の意見を伝えることはできなかったと思いますが、自分の言いたかったことだけでも伝えることができたと思います。この経験を通して、僕は積極的に自分の意見を伝えるようにしていきたいと思いました。

◆西邑楽高校班

1年 武正 優星

今回七校合同読書会に参加して、「君は月夜に光り輝く」について色々な人の意見を聞いて自分の意見との違いを知ることができ、人には人の考え方、自分には自分の考え方があるということが分かりました。

このことから、「この本はおもしろい」と思える本に出会ったとき、それを友達にすすめて、その本の感想を知りたいと思うようになりました。それは、それに

よってさらに深くその本について知り、他人の見方を知ることによって、より具体的にその本を理解できるからです。物語であれば、登場人物と自分を重ねて、自分だったらどう思うのか、自分だったらこの問題をどういうふうに対処させようとするのか、すると結果はどうなるのかを友達とはどのように考えるのかを知ることができそうです。

館林高校の中だけでなく、他の高校の生徒の意見を聞く機会はとても貴重なことで、今後このような経験をすることは無いと思えます。とてもよい経験ができてよかったです。

◆西邑楽高校班

1年 フェルナンデス 諒

私は、この七校合同読書会というものがどのようなものかと思いました。一冊の本について話すということはありましたが、学校単位での大きいものではなかったもので、緊張していませんでした。

しかし、始めると他校の生徒が本に対しての感想、そしてその本に込められた思いを述べている姿を見た時、私は思わず感嘆の声を上げてしまいました。自分では考えもしなかった所に目をつけ、自分が納得できないような意見には納得できないような理由を用意するなど工夫を見ることでできました。さらに雑談や休憩時間を設けることで生徒同士の交流、そして自分の

◆大泉高校班

1年 萩本 和幸

七校合同読書会において、普段僕たちは、この年頃で大切な人の死についてあまり深く考えたことがなかったのですが、あの場で話し合った時間は有意義なものだと思っている。特に他校それぞれの死の見方やその人自身の持っている意見、考えを共有できたことが良かった。「それは一理あるな」とか、「そんな考え方があったのか」などと思わされたことも多く、他の人も自分の思った以上に一つのものを深くとらえ、現実的かつ濃密な考えを持っていたので、話し合いの幅が広がりました。読書の感想の発表会という名目の人生観の話し合いになってしまったが、自分の考えを深めることができたし悪くなくあったと思っています。

今後このような機会があったら、もっと積極的に実施するのも良いと思う。後、このような話し合いの機会があるときには、その場で考え、思いつくことも大切ではあるが、あらか

じめ考えをまとめて、土台を作って進めようと思った。

◆大泉高校班

1年 福田 健仁

私は、読書会の予行練習では、緊張して話すことがまとまらず、待つてもらったことがあったので本番でちゃんと人と話せるかとても心配でした。しかし、予行練習をしていたおかげで、本番では思ったよりも良く話せていたと思います。

例えば、予行練習のテーマである「大切な人や愛する人がまみずと同じようになつたらどうするか」の話で、話す内容がまとまっておらず、あまり話せませんでした。でも本番では、自分の感想をまとめることができ、ちゃんと言えたと思います。

他の人はテーマについて、寄り添うことや、したいことをさせてあげるなど、大切な人のためにつくす人が多かったです。別のテーマで話し合った時では、みんなの色々な意見が聞けて、こんな考え方もあるんだと感心しました。この読書会では色々な意見が聞けて、とても有意義な時間が過ごせたと思います。

◆関学附高校班

1年 井野口智也

私は邑楽・館林地区七校合同読書会において他校の人たちと「君は月夜に光り輝く」の意見交流をすることができた。その中で自分

と異なる意見を持った人が多かった。このように他の人の意見を聞くことによつて、この本をまた違った視点で読み合つていくことができた。そして話し合っている中で司会の人や雑談を入れるなど、コミュニケーションもうまくとることができた。私はとても緊張していましたが、早く打ち解けることができた。このように他校の人たちと楽しくコミュニケーションを取ることで良い経験にもなり、自主性なども身についたと思う。

◆関学附高校班

1年 篠木 颯真

今回の邑楽・館林地区七校合同読書会は、とても良い機会だったと思います。私は本を読むことが好きなのですが、今回のように本について語り合ったことがなかったもので、とても新鮮な感じがして楽しかったです。また、本について語り合う以外にも、途中で雑談を入れたらしたので緊張が解けてリラックスして参加することができました。

そして今回のメインテーマである「もしも大事な人や愛する人が、余命幾許もないと宣告されたらどうするか」という質問に対して、

それぞれの人が考えた意見を聞いたので、メインテーマ自体は、とても難しいのですが、理解を深め、自分自身で意見を持つことができました。

今回のように、本について色々な人たちが話し合ったり、意見を出し合う機会が、普段ないので、少し緊張したけどとても楽しかったです。また機会があったら今回のようなことをやってみたいです。

◆館林商工高校班

1年 板岸 巧

初めて読書会に参加しました。最初は怖いイメージがありましたが、レクリエーションとしてババ抜きをして緊張をほぐしました。一番でした。

「もしも大事な人や愛する人が、余命幾許もないと宣告されたらどうするか」が今回の討議のテーマでした。自分の考えとしては、寄り添って見届けるという考えだったのですが、他校の人たちは、本当に大事な人から心配かけて今後の人生に影響を与えてしまうので、寂しいけど一緒にいないという、自分では正反對の考えで少し驚きました。自分の立場もそうだけど、相手の立場にもなつて考えることも必要なんだなと思いました。

このような機会があったら参加したいです。

◆板倉高校班

1年 須藤 侑哉

今回の七校合同読書会に参加して感じたことは、この読書会のメインテーマ「もしも大事な人や愛する人が、余命幾許もないと宣告されたらどうするか」というテーマについていろいろな意見を交わし合えたことがとても良かったです。自分が思っていたと発表した意見でも、他の班の人が別の意見や自分の意見に対する反論を述べてくれたりして、このテーマをすごく深く受け取ることができました。

また、この討議で学んだ人の思考を考えたりその反論をくつがえすような意見を言うときの考え方も、これからの人生に役立つような力になると思います。意見をぶつけて話し合う討議というのは初めてだったので、最初は、しっかりと自分の意見が言えて良かったです。そして、班の人も全員初対面だったので、趣味の話などで盛り上がり、司会の人も一番最初にレクリエーションの場を設けてくれたりして友好関係を深めることができました。来年も参加したいです。

他校の人たちと交流していくうちにどんどん本について理解も深まり、親睦も深まってとても有意義な時間を過ごせました。また

新着任者座談会

テーマ 私と読書

令和元年5月24日(金) 午後1時30分~午後3時 於 視聴覚室

新着任の先生方に読書体験を話していただきました。



高張 浩一 校長先生

- ①好きなジャンルの本・作家
- ②一番心に残っている本
- ③読書の「きっかけ」
- ④活字離れの高校生へ向けて
- ⑤電子書籍について



清水 豊先生 (地歴公民)

上がる直前に「この続きは、自分で読んでください。」という決まり文句で先生の語りが終わってしまい、続きが気になってそれらの本を読んだこと。あとは高校生のとき、読書家の友人がミステリーを薦めてくれたこと。

④まず楽しいと思える本を読むのがよいと思う。

⑤活用しています。「利点」文字の大きさを変更できる。(老眼なので大きくして読んでいます。保管に場所をとらない。携帯性がよい。(電車の中で読むのに利用している。)無料の本がある。(無料のものだけ利用している。)[欠点]紙より多少目が疲れるかな。

①「好きなジャンル」エッセイ、歴史関係。「好きな作家」椎名誠、東海林さだお、浅田次郎、司馬遼太郎。

②「私本太平記(吉川英治)

③特になし、気がついたら読書が好きになっていった。

④イラストの多いもの(ほとんどマンガになっていもの)からチャレンジする。受験用の参考書にも同様のものがあります。

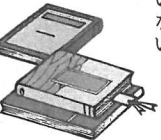
⑤活用していない。



①「好きなジャンル」SF、ミステリー、科学。「好きな作家」ジエームズ・P・ホーガン、アガサ・クリステイ、池谷裕二、塩野七生、阿刀田高

②「一番だから本当は一つなのでしようが、複数書きます。『星を継ぐもの』『アクロイド殺人事件』『晩年に想う』『名人伝』『木のこころ木の中の』」

③「中学生の頃、SF小説を読み、とても楽しくて次々読んでみたいと思ったこと。また、高校生のときの国語のM先生が、教科書に出てきた作家の作品のあらすじを語ってくれて、テレビドラマのように話が盛り





金井純一先生 (英語)

①小説とエッセイです。特に好きな作家は宮本輝、村上春樹、村上龍、伊集院静。最近では葉丸岳、佐々木謙

②(最初)村上龍の『コインロッカー・ベイビーズ』です。これが小説を読むきっかけになった本です。(最近)東野圭吾の『さまよう刃』と佐々木謙の『警官の血』

③読書好きの母の影響と興味深い書籍をたくさん勧めてくれた図書館の司書の先生との出会いです。

④図書館に赴き、まずは本を手取ることでと思います。気になるタイトル、映画化されたもの、ドラマのノベライズ本 etc.: 何でも本を手取るきっかけにはなりません。

⑤英語辞書同様、入りは紙ペースだと思えます。その先は個人の好みでしょうか。自分は圧倒的に紙ペースを推します。



上山絹子先生 (英語)

①『好きなジャンル』新書、小説、エッセイ。『好きな作家』池上彰、養老孟司など。

②『夢をかなえるゾウ』シリーズ。関西弁をしゃべる怪しいゾウの神様ガネーシヤが、さえない日常生活を過ごしているサラリーマンに、トイレ掃除や靴磨きなど自分を変えるための課題を出し、主人公の意識が変わっていく自己啓発本です。

③高校生のときに、三浦綾子の『塩狩峠』を読み、最後に主人公がブレイキの効かなくなった電車を止めるために自分の体を下敷きにして止める場面に号泣し、三浦綾子の作品をよく読みました。

④スマホを見る時間を制限し、そのスキマ時間を読書時間にする意志の強さが必要だと思えます。

⑤個人的には紙媒体の方が、読んだページが目分量でわかるので、達成感があって好きですが、隣に座っていたALTのジャンセン先生はよく活用しているようで、便利だと言っていました。



前島律子先生 (音楽)

①好きなジャンルというよりは、音楽に関する本を読むことが多いです。

②1冊に決められないので、『神曲』ダンテ・アリギエーリ

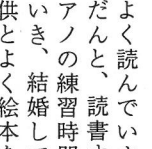
③『蜜峰と遠雷』恩田 陸

④『神様のカルテ』夏川 草介

⑤子供の頃から、絵本はよく読んでいました。だんだんと、読書する時間がピアノの練習時間変わっていき、結婚してからは、子供とよく絵本を読んでいました。「きつかけ」というよりは、自分の生活に合わせて、読書する感じですね。

④自分の好きなことや、興味のあるものから読んでみるの、いかがでしょうか？

⑤使ったことがないので分かりませんが、すぐに見られるのは便利だと思います。ただ、自分は使おうとは思いません。



齋藤真実先生 (地歴公民)

①ミステリー小説をよく読みます。世界史が好きなステリー小説が好きです。

②ベタですが、J・Kローリングの『ハリー・ポッター』シリーズです。小学生のときに読みました。内容もとても好きだったのですが、あの厚さの本を読む、ということ自体に情熱を燃やしていた気がします。

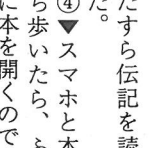
③小学生のときに行われた、クラスで誰が一番本をたくさん読めるかを競う読書チャレンジがきっかけのような気がします。伝記も読んだ本に入れていい、という感じだったので、ひ

たすら伝記を読んでいました。

④スマホと本を一緒に持ち歩いたら、ふとしたときに本を開くのでは...

⑤手軽に読めて良いのではないかと思います。紙の書籍を買う前の、試し読みみたい感覚で読めると思うので。まずは、電子書籍で読んでみて、じっくり読みたい、現物を手元に残しておきたいと思ったら、紙媒体を買う。私も結構このサイクルで、本を買っています。

①ジャンルも作家も特にこれといって好きな物はありません。こだわりを持たず様々な物に興味を持ちます。



今泉健汰先生 (実習助手)

①『この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた』最近読んだ本の中で面白いなと思ったのでこの本を選びました。もしこの地球がリセットされたら「どうやって一から文明を作るか」という興味深い内容を解説した本です。

②国語の教科書に載っていた作品を読み面白かったことですね。

③漫画や雑誌などからでもいいので、まずは文字を読むことから始めるといいかと思えます。

④とても便利でいい物だと思います。ただ、本を読む際、紙の匂いやページを

めくる感覚などが好きなので、書籍の本の良さを大切にしていきたいです。

①好きなジャンル→ミステリー。好きな作家→恩田陸さん。

②『夜のピクニック』



津久井 梨生先生 (事務)

①国語の教科書でもおもしろいと感じたお話の単行本を買ったことがきっかけです。教科書では、お話の一部だけしか載っていないことが多いので、続きが気になって本を買うようになりました。

④ライトノベルなどの会話文の多い本など、読みやすい本をすすめる。おやすめの一冊を他の友達にプレゼントするような機会を作る。

⑤スマホやタブレットで持ち運びやすいところは利点だと思いますが、私は紙の質感や新品の本の独特の匂いが本を読んでいると感

じられるので、電子書籍はあまり利用しません。

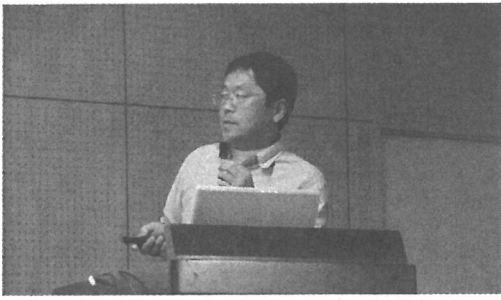


図書室主催講演会  
「私の放浪癖」

講師 柳田 淳先生

11月29日(金)第2学期  
期末考查最終日の午後1時  
から、柳田淳先生を講師に  
お迎えして、図書室主催の  
講演会を視聴覚室で開催し  
ました。講演内容は次のと  
おりです。

昔から「なくて七癖、あつて四十八癖」という諺があります。どんなに癖(へき)がないように見受けられる人でも、最低七つは癖を持つという意味です。私の場合は表題の癖が個人として最たるものであり、講演ではなぜその癖が開花し、発展していったのか、いくつかの放浪話を元にご紹介させていただきます。



ここでの放浪とは完全にあてのない旅という意味ではなく、私の場合は旅のメインテーマを持ちつつも、実際に目的地へ赴くと様々な情報に感化されて、あれもこれも面白いなどと色々興味も派生していき、最終的に取り留めのない旅になってしまふことや、「宿は雨風を凌ぐことができればよし、食は空腹が半ば満たされればよし」という偏屈な理念のもと寝食に極力、経費をかけないことなどからこのような表現を使っています。

事のはじまりは高校時代に遡ります。当時、国語の教科書に掲載されていた随筆や、理科(生物)のバイオーム、また地理で習った事柄等が深く心に刻まれたことが発端であったと記憶しています。その中でも、とりわけ興味を持ったのが地理であり、教えてくださったのが、旧松原団地駅(獨協大学前駅)から通勤をされていた松原先生でした。私にとつて先生の話はいつも面白く、実体験を元に話されるので地理の授業はとて

も楽しみな時間でした。ただ、残念ながら本人の興味関心と肝心の成績は正の相関ではなかったことを今ここに懺悔いたします。さて、松原先生の授業は教科書の内容に留まらず、ご自身が沖繩出身であったことなどから太平洋戦争や米國統治下時代の歴史話、インドの大富豪宅を家族旅行で訪問したお話など、戦

争の凄惨さや激動の戦後、世界の国々の社会情勢などはあまり知らなかった高校時代の私にとつては非常にセンセーショナルな内容でした。いつも柔和で訥々とお話しになる先生の講義からは旅をこよなく愛し、実際に体験することでも自らの視野を広げようという気持ち

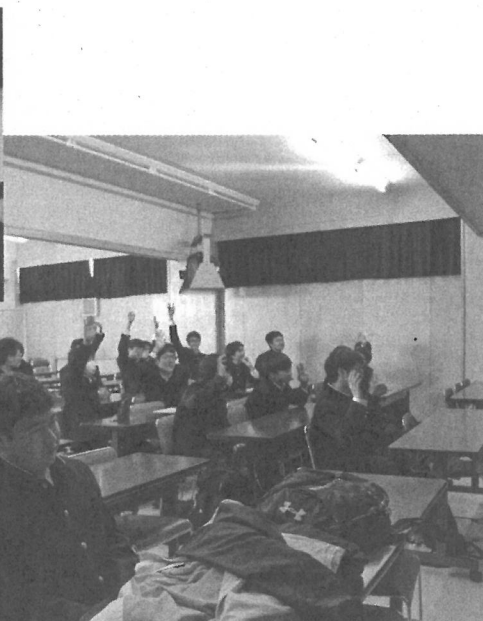
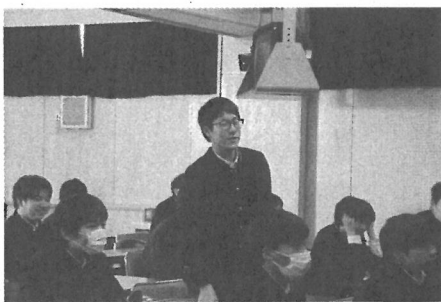
がひしひしと伝わってきました。そんな先生の影響もあり、高校生時代の私も旅に憧れを持ち、その後に開花する自身の癖を認識することとなります。ときに地理の教科書にあった専門用語に興味を抱き「氷河地形」「モレーン湖」「大嶺井盆地」や「カレーズ」など世界中の未知の景観や構造物に思いを馳せ、いつかは現地へ行き実物を見てみたいという気持ちが高まりました。高校生では時間や経済的な制約はありましたが、大学や社会人になってからは、小銭を貯めつつ、しばしば放浪に出掛けられる機会を得ました。

大学では学部の実習やアルバイトなどで国内の島嶼や山地に出掛けて生物観察の面白さや野外活動の基礎を学んだことで、幸か不幸か癖に一層の磨きがかかってしまいました。この癖に関しては友人や我が娘から「時間とお金と体力を浪費して何が楽しいのか?」としばしば尋ねられます。たしかに今の時代、現地まで行かなくともインターネットやSNSなどで、いとも簡単に欲しい情報

報や物品が合理的に得られる時代にあつて、賢者であるならば、わざわざ旅に赴く理由は毛頭ありません。まして、研究者やジャーナリストのように端正な記録も世間に問うべき大義もなく、そこに多少の不自由さやリスクが介在するとなればなおさらです。けれども、私にとつては普段の日常生活では気づけないことも、時折、非日常的な空間に身を置くことで自然の荘厳さやその営みに感動し、里に降りれば、そこで出会う人々との交流を楽しむことで人間社会の温かさやありがたさを再認識するという貴重な機会となつています。更にはそこでも得た体験や思い出というものは生涯の宝であると感じています。

このように個人的で密やかな趣味嗜好の域を逸脱することなく、いかにすればこの楽しさや奥深さを家族に伝承できるかと日夜、思案するのですが、そこには個々の価値観の多様性も存在し、一筋縄ではいかないことを痛感します。特に娘には面白さを熱く強くアピールすればするほど逆効果で「親父のロマンは娘の不満」という危機的状況が続いていましたが、最近では学生時代に生物多様性を学んだことを思い出し、個人的アイデンティティ尊重のため、お互いの個性を大事にしようというスタンスでコミュニケーションを図っています。

最後にありますが、高校時代に古文で習った「そぞろ神のものにつきて心をくはせ、道祖神の招きにあひて、取るもの手につかず」という奥の細道の序文は多くの方がご存じのことだと思います。かの松尾芭蕉をして、こう言わしめた「旅」。芭蕉は三里に灸を据え、旅の準備を整えたとあります。私も放浪に向かう気持をそぞろ神や道祖神のせいにしたのですが、旅の聖人である芭蕉のように断捨離ができず、まだまだおぼろげな仕事を続けている凡庸な身にとつては、家族に灸を据えられないよう、「やすい(家計に負担をかけない低予算)」、「はやい(機を捉えてスピーディー)」、「うまい(満足度の高い)」の三拍子をモットーに放浪癖を人生の糧として、これからもしたたかに継続していきたいと思



たいのですが、旅の聖人である芭蕉のように断捨離ができず、まだまだおぼろげな仕事を続けている凡庸な身にとつては、家族に灸を据えられないよう、「やすい(家計に負担をかけない低予算)」、「はやい(機を捉えてスピーディー)」、「うまい(満足度の高い)」の三拍子をモットーに放浪癖を人生の糧として、これからもしたたかに継続していきたいと思

たいのですが、旅の聖人である芭蕉のように断捨離ができず、まだまだおぼろげな仕事を続けている凡庸な身にとつては、家族に灸を据えられないよう、「やすい(家計に負担をかけない低予算)」、「はやい(機を捉えてスピーディー)」、「うまい(満足度の高い)」の三拍子をモットーに放浪癖を人生の糧として、これからもしたたかに継続していきたいと思

人気貸出図書

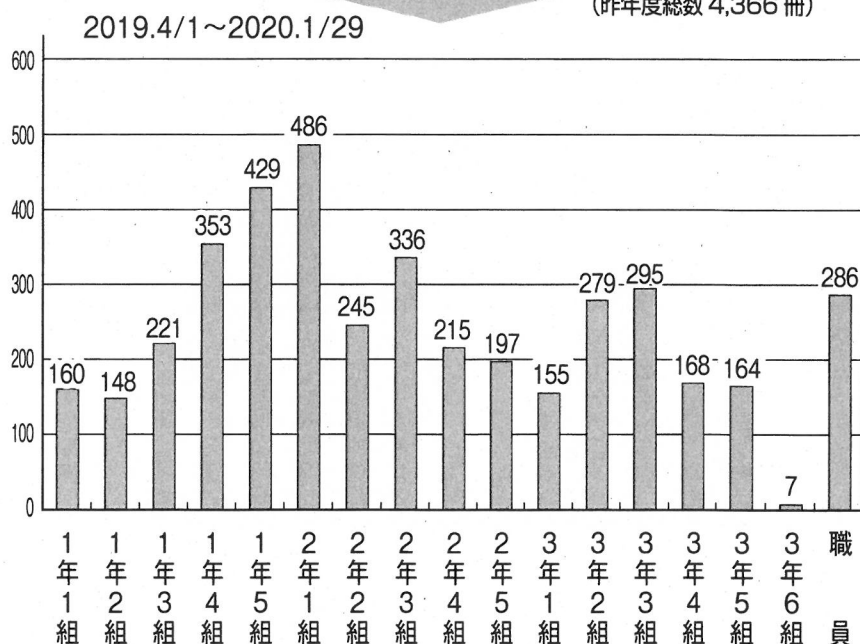
順位	書名	利用者数
1	この素晴らしい世界に祝福を！ シリーズ (暁なつめ著)	79
2	SLAM DUNK シリーズ (井上雄彦著)	64
3	ロクでなし魔術講師と禁忌経典 シリーズ (羊太郎著)	56
4	ロクでなし魔術講師と追想日誌 シリーズ (羊太郎著)	17
5	君は月夜に光り輝く (佐野徹夜著)	15
6	屍人荘の殺人 (今村昌弘著)	10
7	ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか 15巻 (大森藤ノ著)	9
8	お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件 (佐伯さん著)	8
9	理想の娘なら世界最強でも可愛がってくれますか？ 2巻 (三河ごーすと著)	7
	ケーキの切れない非行少年たち (宮口幸浩著)	7

貸出利用冊数上位者

順位	クラス	氏名	利用数
1	1-4	神山 耀慶	177
2	3-5	池本 幸多	140
3	2-1	成塚 騎士	106
4	3-3	新井 健哲	104
5	3-3	阿部 光	100
6	1-5	増田 優希	88
7	2-1	根岸 瑞季	84
8	3-2	玉岡 颯斗	83
9	1-5	須藤 侑哉	71
10	1-4	吉江 瑠哉	57

クラス別貸出冊数 本年度総数 4,144 冊

(昨年度総数 4,366 冊)



編集後記

およそ3年前、館林高校に入学して委員決めをした際、迷いなく図書委員に立候補したのを今でも覚えています。理由は単純で、本を読むのが好きだったからです。委員の仕事はしながら趣味の幅が広がれば一石二鳥だなど思っていたのですが、現実は厳しく、1年、2年とも他の立候補者との選考にあぐら、図書委員になることは叶いませんでした。

最後の希望を託した3年次、念願の図書委員の椅子を獲得した私の胸には、ある密かな野望がありました。それは本の魅力をもっと皆に知らせたいということでした。委員になれなかった2年間、私の周囲では読書をする人がとても少なかったのです。私は、たくさんの魅力的な作品に出会わないうまま卒業してしまうのになんか寂しい感じがしていました。

そんな私がこの一年間、委員の仕事をした中で、皆さんに本好きになってもらうために特に勧めたいのが、本校行事の「新着任の先生方による図書館座談会」です。先生方がご自身の読書体験についてお話をしてくれる催しなのですが、先生方の話がとても個人的で興味深く、本好きの私でも知らないような本の話が数多く聞ける貴重な場です。お話のあとに質問をする時

間があったのですが、質問したいことが多すぎてどれを質問しようか困ってしまっただけでした。終始、和気藹々とした雰囲気の中で先生方と談笑した事はとても印象深い思い出となりました。読書をしてみたいけど、それが面白い本かわからない、という人にぜひ足を運んでほしいです。きっと皆さんが本を好きになるきっかけになるはずですよ。

さて、今この一年を振り返ってみて、果たしてどの程度皆さんに本の魅力を伝えられたのだろうかと思うと、自分の力不足の感は何もありません。また、初めて図書委員に入った上に委員長という大役を任せられ戸惑ってばかりの私を、多くの仲間達が気遣い、サポートしてくれていたことも忘れてはなりません。きっと完璧に仕事を全うできたわけではなく、思った通りにはなかったと思いますが、周囲の助けのありがたみを実感できたのは、私にとって大きな収穫でした。

最後になりますが、館高の図書室には皆さんの興味を惹く本がきっとあります。まずは、図書室に足を運び、いろいろな本と向き合い、世界観を広げてほしいと思います。本を介して皆さんの残りの高校生活が有意義なものになることを心から願っています。

図書委員会委員長 中島 陸